

河川環境保全を中心としたまちづくり NPO 団体の活動事例とその評価  
-徳島市新町川を守る会を題材として-

Activities and their evaluation of a NPO group on town planning and river environment reservation  
-Focus on Shinmachi Gawa wo Mamoru Kai in Tokushima city-

中村泰基\*\*、島博司\*\*\*、山中英生\*\*\*\*

By Hiroki NAKAMURA, Hiroshi SHIMA, Hideo YAMANAKA

1.はじめに

近年、住民の手による「まちづくり」が、全国各地で多彩に繰り広げられている。こうした「住民の手によるまちづくり」を支えるには、それに対応した「適切な社会システム」が必要とされている。そのシステムの一つとして NPO（民間非営利組織）に期待がよせられている。

ボランティア団体をはじめとする民間非営利団体（NPO）が法人格を取得できる「特定非営利活動促進法」（NPO 法）が平成 10 年 12 月 1 日に施行された。この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与すること等により、「ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動の健全な発展を促進すること」を目的としている。

本研究では、河川の環境評価をきっかけとして清掃活動を中心に始まったまちづくりボランティアグループである「新町川を守る会」（平成 11 年 NPO 資格取得）の活動に着目し、その活動の実態把握とともに、構成メンバーへのアンケート調査をもとにして、活動のまちづくりにおける評価と組織上の課題を分析する。

2. NPO 法人・新町川を守る会の誕生経緯

徳島市内中心部を流れる新町川は、高度経済成長期に主に産業活動により水質汚濁が進行し、昭和 42 年～48 年にかけては、新町橋では BOD（生物化学的酸素要求量）

で 10mg/l を超える程水質が悪化していた。このため、行政の努力により、工場・事業所に対して、排水規制が実施されるとともに、下水道の整備が推進され、BOD で 4mg/l と改善が図られた。その後、主要な汚濁発生源だった生活排水についての対策が進められ、この結果 2～3mg/l と改善された。一方、こうした行政活動に呼応する形で、新町川周辺の住民が、ボランティア活動としての河川の清掃運動を行っていたが、これを集結する形で平成元年 3 月 28 日「新町川を守る会」が結成された。現在では、会員数は 220 人になり、河川の清掃の他に川への市民の関心を集め、川の環境保全に対する市民意識の向上を目指すとともに、新町川の流れる市中心部の活性化を目標として、河川沿いの護岸での花壇の整備やイベントコンサート等の各種活動を展開している。

3. 新町川を守る会の活動内容

この会は、地域住民に対して、河川環境の向上とまちづくりに関する活動を行い、地域社会に寄与することを目的としている。表-1 は、この会が行っている活動の内容について整理したものである。

活動内容は、新町川等の清掃等河川環境向上のための活動、新町川等の水辺に人々が楽しめ、にぎわいのある場所とするための活動に分けられる。それぞれは市内中心部の新町川水系と市中心の北側を流れる吉野川に分けられるが、まちづくりとしては特に「にぎわい創出」のための活動に注目が集まっている。一方で地道な清掃活動が長年にわたって継続されており、その参加者が常に維持されてきた点が重要である。

会の運営は、リーダーとして会の事業の率先者である理事長を中心に、副理事長 3 人と理事 3 人と監事 2 人と事務局長 1 人の約 10 人のリーダーグループが中心となっている。組織としての活動維持に悩むボランティアや NPO

\*Keyword : 意識調査分析、市民参加

\*\*学生会員 徳島大学大学院工学研究科建設工学専攻

〒770-0814 徳島市南常三島 2-1 TEL088-656-7578

FAX088-656-7579

\*\*\*正会員 工修 集環境計画

\*\*\*\*正会員 工博 徳島大学工学部 教授

表-1 新町川を守る会の年間活動状況

|             | 活動名                | 活動内容                                       | 実施日時                     | 実施場所             | 従事者人数   | 受益対象者及び予定人数       |
|-------------|--------------------|--|--------------------------|------------------|---------|-------------------|
| 河川環境の向上活動   | 新町川の清掃             | 川の浮遊ゴミをボートに分乗した会員が網ですくい取り回収し、廃棄場所に運ぶ       | 毎月1日と第3土曜 13:00～15:00    | 新町川・田宮川・助任川流域一帯  | 7～15人   | 新町川・田宮川・助任川周辺地域住民 |
|             | 田宮川の土手花壇の管理        | 河川土手に整備された花壇に本会が植えたアジサイ、ツツジ、チューリップの手入れ     | 毎月第2以外の日曜日 7:00～9:00     | 徳島市北佐古田宮川土手約800㎡ | 約10人    | 田宮川周辺の地域住民        |
|             | 吉野川アドプトプログラム推進     | 吉野川の河川清掃ネットワークを作り、決められた範囲を本会が年間を通じ清掃       | 毎月第2日曜日 8:00～10:00       | 吉野川下流域設置区間       | 約50人    | 区間が未定の為人数不明       |
|             | 吉野川クリーンアップ大作戦      | 吉野川フェスティバルと連動して開催、吉野川下流域一帯の大清掃を行う          | 7月31日                    | 吉野川下流域河川敷一帯      | 約10000人 | 吉野川流域住民           |
| 河川のにぎわい創出活動 | ひょうたん島遊覧船の運航       | 新町川・田宮川・助任川、延長約6kmのコースを本会所有の遊覧ボート2隻で周遊する   | 毎 13:00～16:00            | 新町川・田宮川・助任川流域    | 4～15人   | 年間約20000人         |
|             | 吉野川フェスティバル         | 本会が中心となって実行委員会を形成し、吉野川下流域一帯において、イベントを開催    | 7月30日～8月1日(3日間)          | 吉野川下流域河川敷一帯      | 約500人   | 約30000人           |
|             | 吉野川クルージング          | 新町川より吉野川に向けて本会所有の遊覧ボートを運航                  | 夏季土・日曜の他不定期で運行           | 新町川・吉野川          | 2～5人    | 年間約100人           |
|             | 津田とれとれ市買出しクルージング   | 徳島市津田漁港倉庫で毎月第2土曜日に開催される市の買物客の郵送と遊覧を行う      | 毎月第2土曜日 6:00～10:30       | 新町川水際公園→津田漁港     | 約3人     | 約500人             |
|             | 田宮川の土手アジサイのライトアップ  | アジサイの開花に合わせて夜間のライトアップするため照明設備を設置し点灯        | 6月～7月                    | 徳島市北佐古田宮川土手約200m | 約10人    | 田宮川周辺の地域住民        |
|             | 助任川緑地公園の提灯と夜間照明の設置 | 阿波踊りの練習風景を楽しんでもらうため本会で夜間照明を設置し点灯           | 7月～8月の19:00～22:00        | 徳島市前川町助任川緑地公園    | 約10人    | 助任川緑地公園周辺の地域住民    |
|             | ひょうたん島ボートレース       | 新町川・助任川の延長約6kmを手でこぐのボートレースを行う              | 7月25日                    | 新町川・助任川          | 約15人    | 約300人             |
|             | 観月演奏会              | 新町川において中秋の名月をバックに雅楽の演奏会を行う                 | 中秋の名月の夜                  | 新町川水際公園特設ステージ    | 約10人    | 約1000人            |
|             | 川からサンタがやってくる       | 新町川・田宮川・助任川流域の子供たちに、ボートに乗ったサンタクロースがプレゼントする | 12月23.24.25日 18:00～21:00 | 新町川・田宮川・助任川流域    | 50人     | 約10000人           |
|             | 寒中水泳大会             | 新町川において寒中水泳及び、古式泳法、寒中阿波踊り等を行い、ぜんざいを振舞う     | 1月11日                    | 新町川・新町川水際公園      | 30人     | 約3000人            |

の多い中で、組織の活動、システムやリーダーシップのあり方に新町川を守る会には、どのような特徴があるのかを本研究ではメンバーへのアンケートからその点を分析することにした。なお、このアンケートには上記のリーダーグループは含まれていない。

#### 4. 会員への意識調査の概要

会員の実態把握、活動の実態把握、会についての意見、活動参加時間、会と中心市街地との関係について把握するために会員に対してアンケート調査を行った。このアンケートは香川大学と(財)日本グラウンドワーク協会の協力を得て行ったものである。会の個人会員193人に1999年10月下旬に郵送で配布した。回収票は70部で回収率は36.3%であったが、回収された70人は会に対し

て積極的な貢献者層を代表しているといえる。図-1は回収サンプルの会員の属性分布を示している。

会員の年齢は、10.20.30代の若年層は24%と比較的少なくなっており、40.50代の中年層は47%、60歳以上の高齢者は29%となっている。

職業は「商業、サービス業」が最も多く25%となっており、これは、商店街のメンバーが中心となってこの団体が結成された経緯も影響しているが、比較的時間が自由となる職種があることも理由であるといえる。そして、次いで多いのが「公務員」で21%となっており、行政との良好な関係が維持されている事が背景にあるといえる。

居住地は、徳島市の中心部で約30%、他の徳島市内は約60%と徳島市内が大多数となっている。

入会時期では、平成11年に入会した層が最も多く、23%となっており、他の年に比べ約2倍近く多い。この

会は、平成 11 年 7 月に NPO 法人として認証され、法人格を得ることによって対外的信用が高まったことが平成 11 年に多くの人が入会した原因と考えられる。

図-2 は会員が入会するにあたって関心があったことの集計結果である。「地域の環境改善」、「河川の環境改善」という環境改善に関する項目が最も多く、全回答数の 43% となっている。会員の環境意識の高さが伺える。

以上より、会員の属性のキーワードとしては、「40 歳以上」「事業者」「徳島市内」「環境に対する意識」が挙げられる。

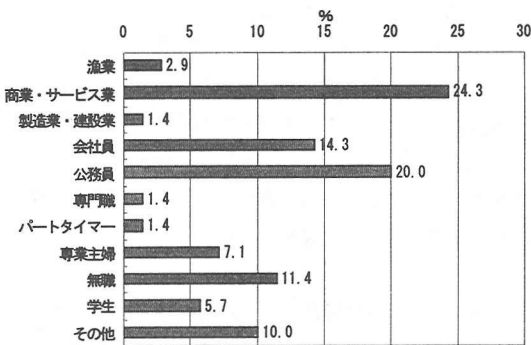


図-1 アンケートサンプルの属性

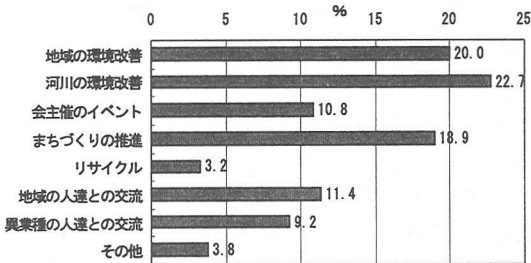


図-2 入会するにあたって関心があった事

## 5. 活動量別による会員の属性と意識分析

### 5.1 会の活動への参加時間からみた会員のグループ化

「会の活動に月にどれくらい費やしていますか?」の質問では、約半数の人が「参加していない」と回答し、会の目的などに賛同し、会費だけ納めている会員や時間的都合などにより参加できていない会員が全会員の半数であることが分かった。また、週に 1 回以上参加している会員は約 5% おり、この 5% の会員が会のコア的存在になっていると思われる。

各活動への参加状況を元に活動量を点数化し会員を 4

グループに分けた。「ほとんど参加」を 2 点、「まあまあ参加」を 1 点とし、合計点 0 点を活動なし、1~4 点を活動量: 低、5~9 点を活動量: 中、10~2 点を活動量: 高として活動量別にグループに分けた。

### 5.2 活動量別会員の属性

50 歳以上に「活動量: 高」のグループに属している人が多くなっており、また、「活動量: 高」を職業別に見ると、事業者が多くなっている。比較的時間が自由となる職種があることが理由であるといえる。入会時期別では、早く入会し長年活動を続けている会員ほど、活動量が多いといえる。以上より、活動量の多い会員の属性のキーワードとして、「50 歳以上」「事業者」「入会時期が早い」があげられる。

### 5.3 活動量別会員の意識分析

入会したきっかけ、入会した目的、入会して良かったと感じること、今後の会の発展に必要なと思う事には活動量別による大きな差は見られない。

一方、図-3、4 に示すように活動量が多い会員ほど、会の活動が中心市街地のイメージアップや人集めに貢献していると答えている。

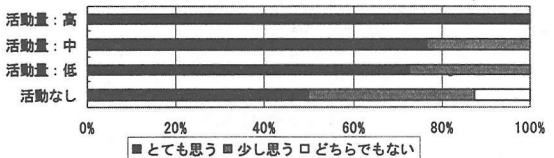


図-3 活動量別の中心市街地のイメージアップ貢献度

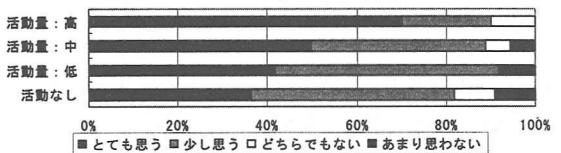


図-4 活動量別の中心市街地の人集め貢献度

## 6. 会の活動への評価と課題

### 6.1 会の活動と中心市街地の関係について

「会の活動が徳島市の中心市街地のイメージアップに貢献していますか?」「会の活動が徳島市の中心市街地の人集めに貢献していますか?」の両方の質問では図-5 に示すように約 90% の人は効果があると答えている。また、

イメージアップや人集めに貢献していると答えている人は、ボランティアに費やしている日数が多い人や新町川を中心としたまちづくりに関心がある人である。

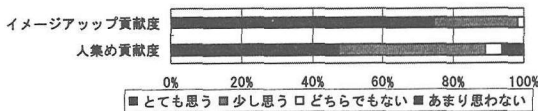


図-5 中心市街地のイメージアップ・人集め貢献度

### 6.2 グラウンドワーク活動について

グラウンドワーク活動とは、多様な実践的な活動を通じて地域の環境を改善する手法であり、我が国でも全国的な組織化が進められている。

会員アンケートでグラウンドワークの活動例を示し、どのような活動に関心があるか聞いてみると、「町並み保全等による地域の景観形成」と「リサイクル活動、ゴミを出さない運動」という回答が多かった。会員は「環境改善」と「まちづくり」に対する意識が特に高いことが伺える。

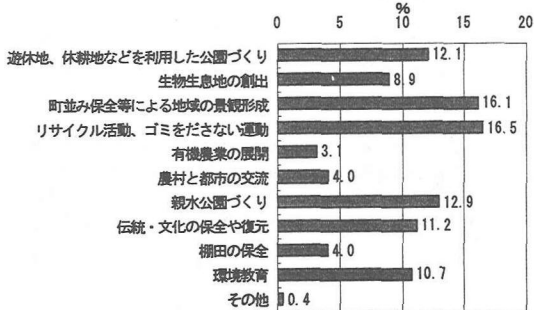


図-6 関心があるグラウンドワーク活動

### 6.3 会の今後の発展について

「会に入会して良かったと感じることは？」では、「人との交流の輪が広まった」、「地域への愛着心が増した」、「河川的环境を改善することができた」という回答が多く、逆に「組織的に活動することにより十分な成果が達成できた」は少なくなっており、これより、団体としてまだ充分には組織的活動することができていないといえる。

「会の活動の発展にはどのような事が必要だと思いますか？」という質問には「誰でも参加できるように」という項目が最も多く、有効回答数の41%となっている。これより、会の活動を開かれた場にする事が望まれる。

次いで「資金援助」という回答が多かった。

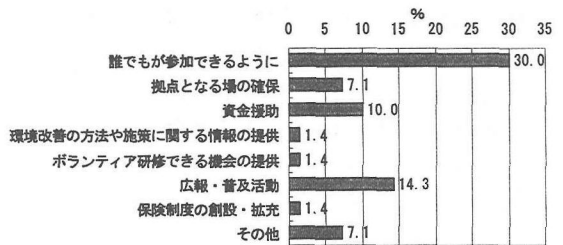


図-7 これからの会の発展に必要な事

### 6.4 会の活動への評価と課題の総括

住民主導のまちづくり NPO 団体が、年間約 900 万円の予算で 14 種類の「河川環境の向上活動」と「河川のにぎわい創出活動」を行って、その活動に対して一定の成果をあげており、長年にわたって活動が継続されている点が評価される。また、活動に参加した会員は、地域への愛着心や環境に対する意識が向上している点も評価できる。

活動量の多い会員の属性は、比較的時間が自由となる 50 歳以上の高齢者や商業者が多く。また、早い時期に入会し、長年にわたって活動を続けている会員ほど活動量が多くなっている。そして、活動量が多い会員やまちづくりに関心がある会員は、会の活動が中心市街地のイメージアップや人集めに貢献していると答え、会の活動を評価している。

今後、組織体制については、役割分担を明確化し、組織的に活動を行う事。情報提供を幅広く、早く行い、誰でも参加できるように会の活動を開かれた場にする事。財政的基盤を確立する事の 3 点が会の今後の発展には不可欠だと考える。

### 7. 今後の課題

今後は、集客効果調査、会員以外で会の活動に携わっている人や中心市街地周辺での市民に対して調査を行い、まちづくりにおける NPO 活動を客観的に評価を行っていきたいと考えている。

また、アンケート結果より会の課題として役割分担、情報提供の強化、財政的基盤の確立が挙げられたが、現状の会の運営体制について詳細に調査していきたいと考えている。